



Keio University
1858
CALAMVS
GLADIO
FORTIOR

慶應義塾大学

「医学・医療への一歩 努力は天命さえも変える」プログラム

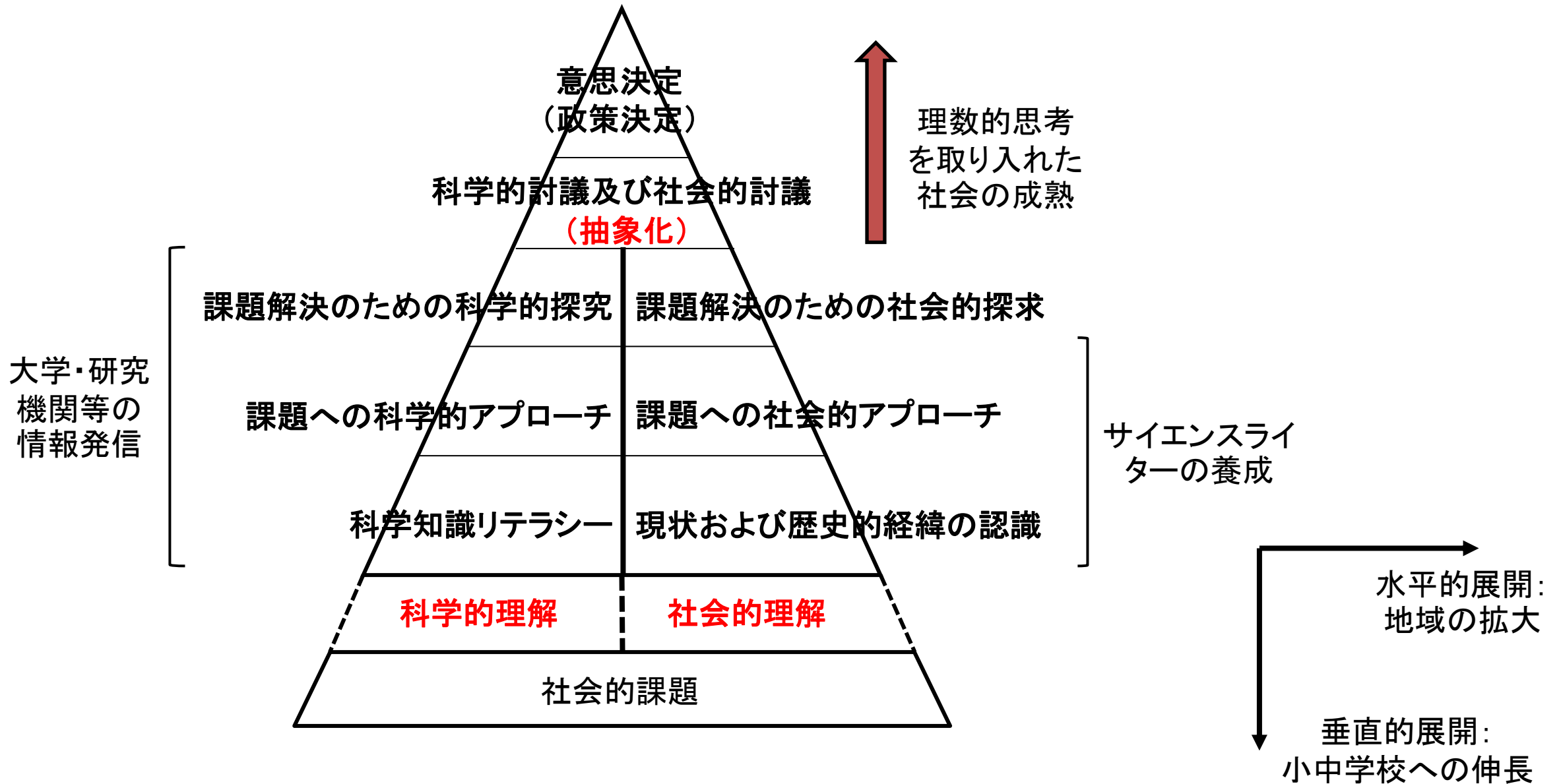
国立研究開発法人科学技術振興機構協定事業 グローバルサイエンスキャンパス

令和4年度 業務成果報告書

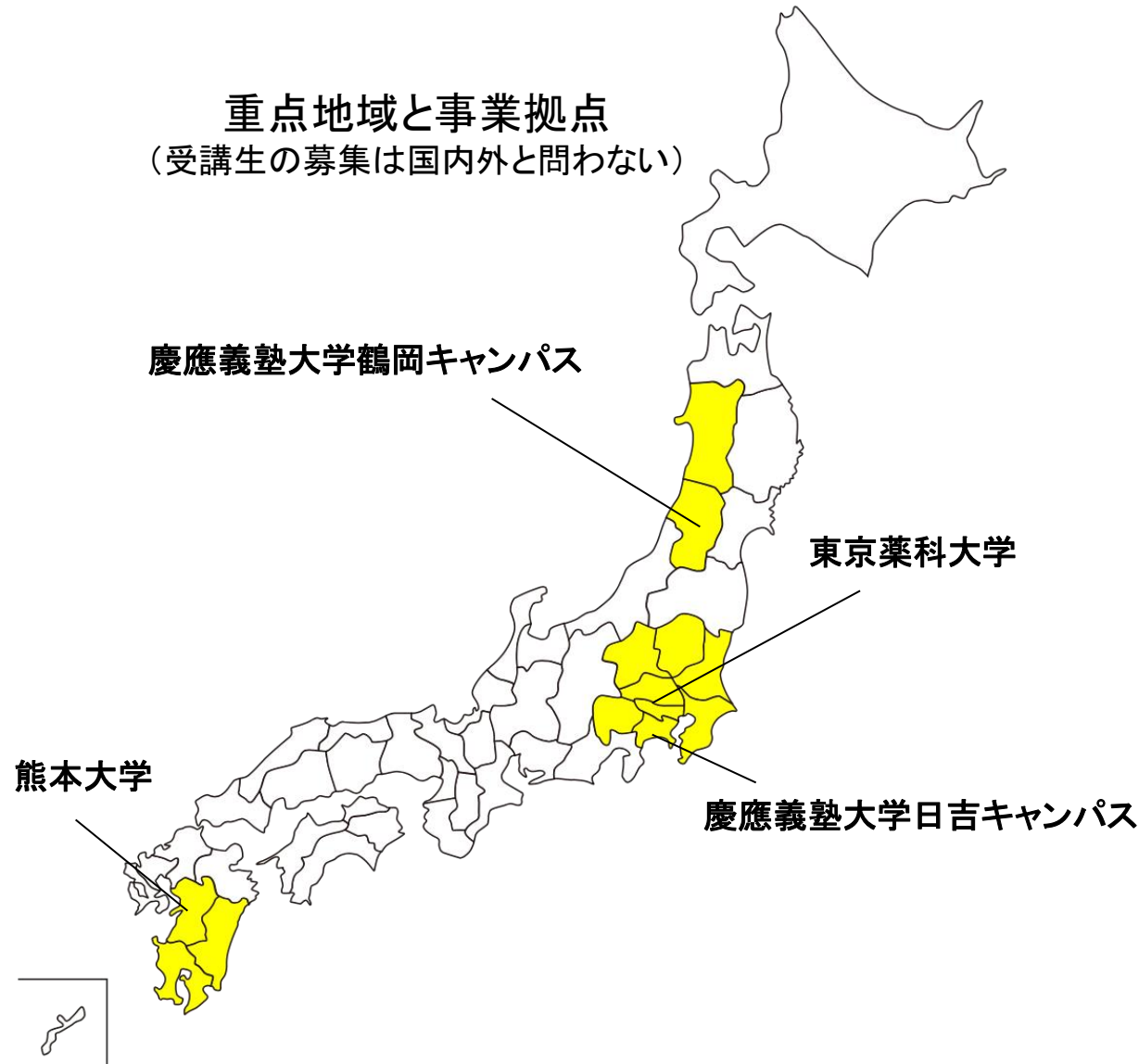
2022年6月～2023年3月

本報告書は、国立研究開発法人科学技術振興機構との実施協定に基づき、慶應義塾大学が実施した令和4年度グローバルサイエンスキャンパス「医学・医療への一歩 努力は天命さえも変える」の成果を取りまとめたものです。

「医学・医療への一歩 努力は天命さえも変える」事業の目的



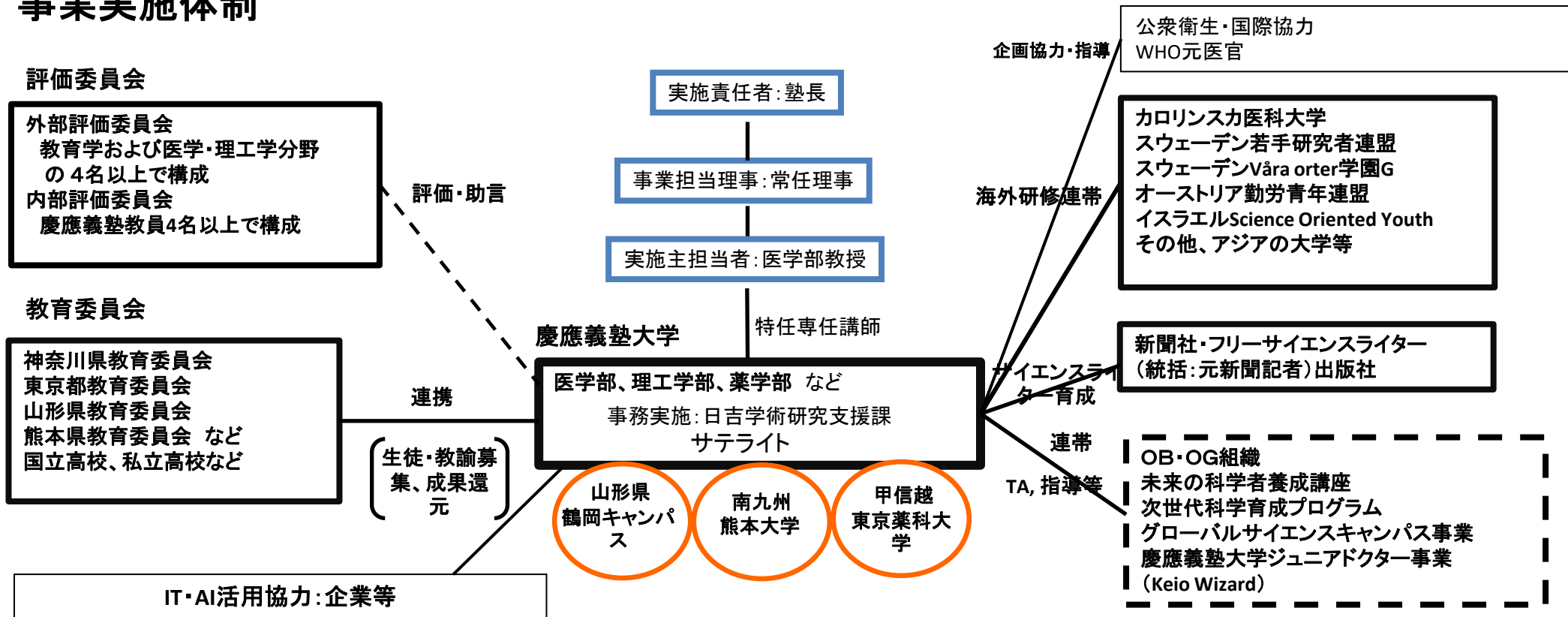
事業の重点地域と事業拠点



連携機関とは協定を結び、重点地域(左図黄色)の全ての教育委員会、教育庁等と連携関係を結んだ。

課題としては、本年度に、鹿児島県の離島の高校生を本事業に招聘する予定であった。これには鹿児島県教育委員会も強く協力して下さったが、残念ながら応募者が皆無であった。来年度は当該教育委員会と現地に足を運んでの勧誘を進める予定である。

事業実施体制



外部協力者(研究実施協力・支援・評価等)

物理・化学教育分野

福岡女子大学
教授

獣医学教育分野

北里大学
教授

アジアとの連携分野

横浜薬科大学
教授

女性の活躍分野

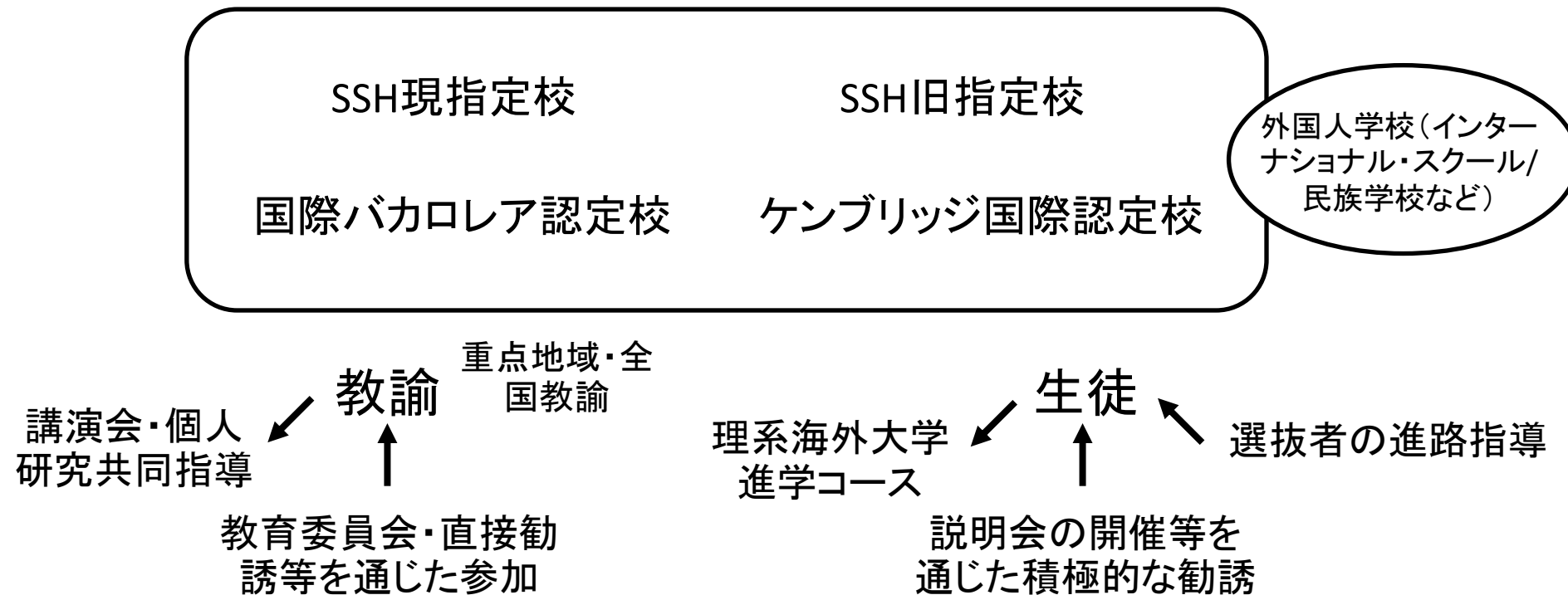
九州大学
教授

企業等による協力

医薬品メーカー、食品メーカー、家電メーカー、機械メーカー等

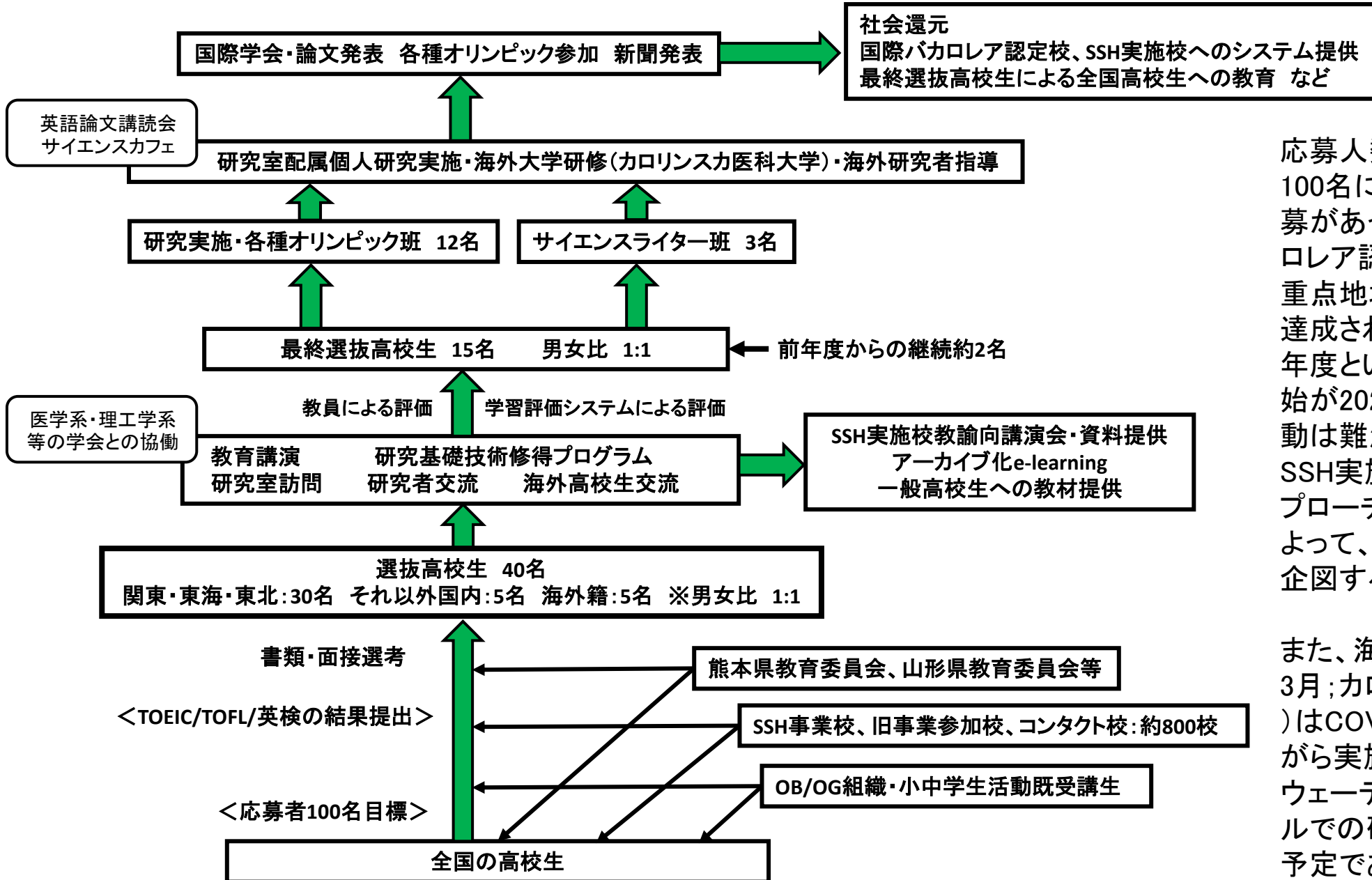
財団法人、NPO法人等

SSH指定校・国際バカロレア認定校の教諭・生徒向プログラム



本年度は、国際バカロレア認定校を中心に募集活動を活性化させた。その結果、国際バカロレアコースの受講生が多数応募して下さった。次年度は、国際バカロレア認定校に加えて、SSH指定校(旧及び現)への募集活動をさらに活発化させる。

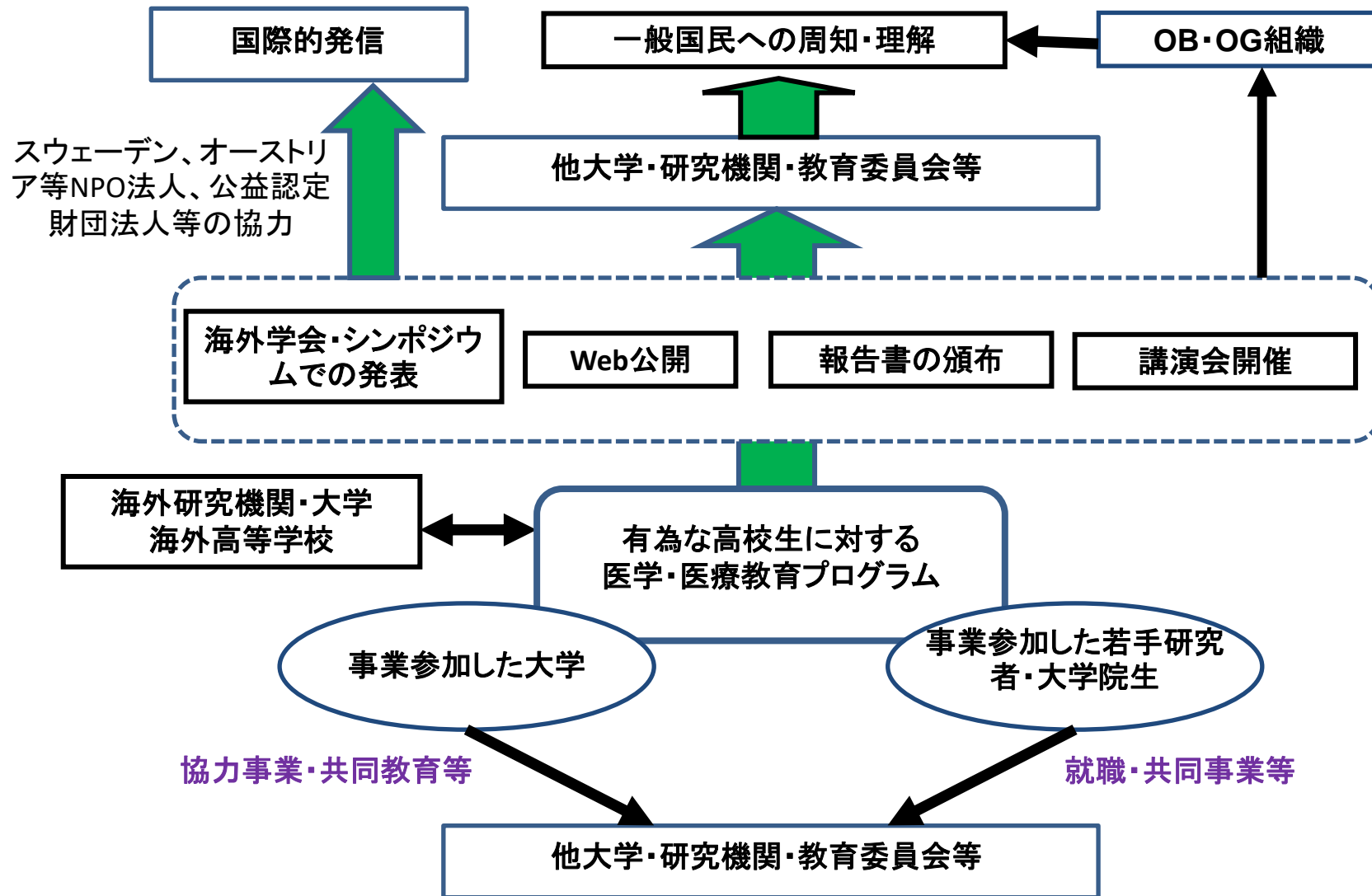
事業進行概要



応募人数に関しては、目標100名に対して、113名の応募があった。また、国際バカロレア認定校からの応募や重点地域からの新規応募が達成された。一方で、事業初年度ということもあり、募集開始が2022年6月であり募集活動は難渋した。来年度は、SSH実施校や海外校へのアプローチを早期に行うことによって、目標を上回る応募を企図する。

また、海外研究派遣(2023年3月;カロリンスカ医科大学等)はCOVID-19対策を整えながら実施したが、来年度はスウェーデンと共に、イスラエルでの研究研修を実施する予定である。

成果の公開及びその波及



事業の成果に関しては、web公開、講演会等を通じて、公開して来た。本年度活動においても年度末報告書の作成及び海外高校教諭とのミーティング(スウェーデン; 2023年2月1日)等を介して成果を公開した。

特に、本年度は連携機関(熊本大学及び東京薬科大学)並びに各都道府県の教育委員会、教育庁との統括会議(2023年3月)を通じて、効果の波及を行った。